

1 コミュニケーションを行う目的や場面、状況などの設定

授業中、何かのテーマについて、児童生徒同士でやり取りをさせる場面があったとします。その時、「この表現を使って話しましょう」と指示したり、「ペアの一方はこのように質問し、もう一方はこのように答えましょう」というパターンを示したりすれば、英語を使ってやり取りをしているように見えます。しかし、児童生徒が自分自身で、テーマについて「何を話すとよいか」（内容）と「それを英語でどのように表現するか」（表現）の両方を考え、やり取りをしているでしょうか。

児童生徒が「知識及び技能」を活用し、「思考力・判断力・表現力等」を身に付けるために取り組む言語活動においては、「何のために話すのか」「誰に向けて発表するのか」「自分が必要とする情報は何か」など、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などを指導者が設定し、児童生徒と共有することが必要です。

例えば、教科書には単元のゴールとして、「世界と日本の夏休みの過ごし方を比べよう」や「あなたの学校生活や行事などを紹介するメールを書こう」などと書かれています。そこに、児童生徒がより意欲的に取り組むことができるように「なぜこの活動をするのか」を加えるなど、目的や場面、状況などを設定してみましょう。



【目的や場面、状況の設定例】 ＊単元末の活動やパフォーマンステスト、ペーパーテストを想定しています。

聞くこと(小)	ALT の誕生日にイラスト入りのカードを渡すことにしました。ALT の話を聞き、どのようなカードを作るか考えましょう。さらにALTに聞いてみたいことを書きましょう。
読むこと(中)	英語の授業で、身近なものを調べてスライドを使い発表することになりました。ある生徒が100円ショップについてまとめた英文を読んで、話の時系列がわかるようにスライドを並べ替えよう。
話すこと 〔やりとり〕(中)	学校の HP に、1年間の学校行事について英語のエッセイを載せることになりました。学校の特長をアピールするためにはどの行事を載せればよいか考え、ペアの相手とやり取りをし、候補となる行事を選ぼう。
話すこと 〔発表〕(小)	地域の留学生とそれぞれの国の学校について紹介し合うことになりました。自分たちの学校の特長をわかってもらうために、学校行事や授業等について話をしましょう。
書くこと(中)	今度来日する ALT は、日本の歴史とスポーツに興味をもっています。来日前に、〇〇市に興味をもってもらえるよう〇〇市のことを紹介するメールを送ることとなりました。ALT の先生に送るメールを書こう。

授業中の活動のためだけでなく、「思考・判断・表現」を評価するには、コミュニケーション等を行う目的・場面・状況の設定が必要です。「話すこと」「書くこと」で「思考・判断・表現」を評価するときには、内容の適切さで判断することとなりますが、その判断基準は、目的や場面、状況などに照らして評価することになります。また、「聞くこと」「読むこと」の評価においても、目的や場面、状況によって、聞き取る（読み取る）べき必要な情報は変わってきます。

目的や場面、状況などを設定することは、指導においても評価においても大事なことです。

Mie English News vol.15（6月号）で紹介した、「パフォーマンステストの実践例の共有及び評価の在り方を研究・発信することで、パフォーマンステストをより多くの学校で効果的に行うことを目的とした研究・開発チーム」の第2回チーム会議を8月18日に開催しました。各地域の実践を紹介します。



アドバイザー：文科大学阿野教授

【四日市市】～小学校～

- ・振り返りシートに、その単元のループリックを掲載し、児童と注意すべき点を共有している。今回、ループリックの評価項目は「内容」と「伝え方」に設定した。
- ・単元末ごとに、専科・担任・ALTでパフォーマンステストを実施している。児童2人で2回ペアを変えやりとりを行っている。今回のテーマは、日本を紹介する内容とした。

【阿野先生コメント】「知・技」…「知識・技能」、「思・判・表」…「思考・判断・表現」

- ・振り返りシートにループリックを載せることによって、事前に児童と注意すべき点を共有している点が素晴らしい。
- ・単元ごとにパフォーマンステストを実施し、その単元で学んだ表現を繰り返し使用している場合は、「知・技」の評価に入れる。既習表現の使用であれば、児童が既習表現の中から思考・判断して選び使用しているので「思・判・表」に入る。「思・判・表」の評価基準に「～に伝えるために」等、目的を入れることが大切である。
- ・うまく説明できなかったことを、言いかえ等をしながら説明している場合は、「思・判・表」と「主体的に学習に取り組む態度」のところで一体的に評価することができる。

【松阪市】～中学校～

- ・総合的な学習の時間で作成した【三重県のいいところ】を英語にし、「ALTの先生がずっと三重県に住んでいなくなるように三重県のいいところをアピールしよう」というテーマ設定のもと、パフォーマンステストを実施した。
- ・実施前に生徒に評価基準を配付し、4人班で練習させた。練習の際、発表者以外の生徒は、評価基準に沿って評価とコメントを記入し、その後班で共有をした。

【阿野先生コメント】

- ・教科横断的な実践で良い。教科横断にすると、話す必然性のある内容なので、「日本語だったら言えるけど、英語だったらどう整理しようかな。」といった生徒の思考につながる。
- ・評価項目に、設定した目的の達成度を測る内容を入れるとよい。ALTが評価する場合は、ALT自身がどれだけ住んでいたいと思えたかを評価項目に入れる。
- ・目的の達成度を評価することによって、生徒はSmall Talk等の際に、相手に応じて話す内容を変えろといったように相手意識が高まるという波及効果がある。
- ・中学校段階であれば、1つのことを掘り下げて、具体例や理由を挙げているかを評価することが可能であり、事前にこのことを生徒と共有しておくことが大切である。

会議では、高等学校からの実践報告もありました。小中連携チーム会議の紹介は次号です。

【お知らせ】県教育委員会では、パフォーマンステスト等の実践報告をもとに、その内容や評価方法について学ぶ「【K091401】【集合】小学校英語－指導と評価に係る研修2（実践）－」及び「【K091402】【集合】中学校英語－指導と評価に係る研修2（実践）－」や公開授業研修「英語授業づくり研修2」を実施します。ぜひ、御参加ください。

申込方法：県総合教育センターHP→1 研修講座→06 科等研修→(K09)英語

